

エリブリン療法の手引き



2020年2月 改訂版

国立がん研究センター中央病院
乳腺・腫瘍内科 薬剤部 看護部

はじめに

乳がんや軟部肉腫の進行を抑えるために、全身治療としてさまざまな抗がん剤が用いられますが、エリブリン療法はよく使われる抗がん剤治療のひとつです。

抗がん剤の副作用には個人差があって、全ての人に同じように起こるものではありません。また薬の種類によっても副作用の特徴が大きく違います。

この小冊子には、エリブリン療法によって起こりうる主な副作用とその対策についてまとめました。

エリブリン療法によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対処法を知ることにより、不安なく日常生活を送れるよう、これからエリブリン療法を受けられる皆様にこの小冊子を役立てていただければ幸いです。

方 法

《注射に用いられる薬》：

以下の 2 本の注射剤を順番に投与します。

注射剤の内容

投与時間

エリブリン注（抗がん剤）

約 2 分







生理食塩液（注射管内の抗がん剤を洗い流す）

約 2 分

《注射方法》：

原則として、週 1 回投与を 2 週連続し、3 週目はお休みするのを 1 サイクルとして、繰り返し投与を行います。採血結果や体調により、休薬したり中止したりすることもあります。

（定期的に採血を行い、検査データを確認致します。）

サイクル	1			2			3		
週	1	2	3	4	5	6	7	8	...
注射			休			休			...

注射名：エリブリン注



エリブリンは、海洋生物であるクロイソカイメンの成分に着目して合成された化合物です。細胞が分裂する際に必要な細胞構成成分の一つである^{びしょうかん}微小管に作用し、微小管を構成しているチューブリンという蛋白質の^{じゅうごう}重合を阻害することにより、がん細胞の増殖を阻害したり、死滅させます。

無色透明

エリブリン注は長い時間をかけて点滴するのではなく、短時間で注射します。注射部位に違和感や痛みを伴うようなことがありましたら、医師・看護師にお申し出下さい。



現在、他のくすりを服用されていて、薬の飲み合わせなど、気になることがございましたら医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

副作用とその対策



エリブリン療法を行った際の副作用はすべての方に起こるわけではありません。その程度には個人差があります。

副作用が強い場合や症状がなかなか良くならない場合は、治療のスケジュールや投与量を調整することがありますので、担当医と相談しましょう。

以下に主な副作用とその対策についてご紹介いたしますので参考にしてください。

発熱

① 薬剤熱

エリブリン療法を受けてから約3日以内に、5人に1人の割合で注射剤に反応して熱が出ることがあります。

対策

解熱剤を処方されている場合は、指示通り服用してください。

② 白血球減少

白血球は、体内へ細菌が入り込まないように守っている血液成分の1つです。

エリブリン療法では、一般的に投与サイクル2週目の後半以降に白血球が減少してくると言われています。白血球が減少すると細菌に対する防御能が低下し、10~20人に1人の割合で発熱や感染を起こす可能性があります。

対策

感染の予防のために、手洗いやうがいをしましょう。

白血球減少によって38℃以上の熱が出た場合、抗菌薬の服用が必要となります。抗菌薬を処方されていない場合は、担当医にご連絡下さい。

扁桃炎・虫歯・歯槽膿漏・膀胱炎・痔などがある方は、あらかじめ担当医にご相談ください。



①薬剤熱か、②白血球減少による熱かの判断が難しい場合があります。発熱時の対応に迷ったときは病院へご連絡ください。

倦怠感



2人に1人の割合で、注射後に体が重く感じたり、だるさを感じたりすることがあります。

対策

疲れを感じる時には無理をせず、こまめに休息をとるなど、体を休ませましょう。倦怠感が強く症状がなかなか良くならない場合は、担当医にご相談ください。



末梢神経障害

3人に1人の割合で、手足のしびれ（末梢神経障害）が出たり、治療前からのしびれが強くなったりすることがあります。

対策

手や足に違和感やしびれが出現した場合には、医療スタッフにお申し出下さい。

また、「物を落としやすい」「つまづきやすい」「ボタンがかげにくい」などの日常生活に影響があるときは担当医にご相談下さい。

症状を緩和させる薬の内服、抗がん剤の減量、抗がん剤の一時休止などの対策をする場合があります。

吐き気

エリブリン療法により吐き気の症状がでることは比較的少ないと言われていますが、患者さんによっては吐き気が出たり、食欲が低下したりすることがあります。

対策

口の中を清潔にしたり、室内の換気を十分にしたりすることで予防することもできます。趣味を楽しみ、気を紛らわすこともときに効果的です。吐き気が現れた場合は、がまんせずに吐き気止めの薬を使いましょう。また、吐き気によりお薬が飲みにくい場合にはご相談下さい。

味覚障害・食欲不振

エリブリン療法中に治療前と比べて嗜好が変わる、味を感じにくくなるなどの味覚の変化がおこることがあります。

対策

食欲がないときには、無理をせず食べられるものを可能な範囲で食べましょう。栄養のバランスが心配な場合は、栄養相談を受けることもできますので、担当医にご相談下さい。



便秘

エリブリン療法によって腸の動きが弱くなり、便がでにくくなる場合があります。

対策

水分を十分にとり、繊維質の多い食べ物をとることを心がけましょう。数日以上の便秘が続く場合やおなかのはって苦しい場合は、下剤による排便の調節が必要となりますので、担当医にご相談下さい。

脱毛

2～3人に1人の割合で、脱毛がおこります。脱毛の程度には個人差があります。治療を終了すれば回復し始めます。

対策

脱毛が始まる前に、かつらやスカーフなどを用意すると良いでしょう。シャンプーは、弱酸性シャンプーやベビーシャンプーなど刺激の少ないものを使用しましょう。外出の際は直射日光を避けるため帽子をかぶると良いでしょう。



orange clover

悩んだり、不安になる前に、外見に関するご心配ごとがあれば、

アピアランス支援センターまでご相談ください。

※オレンジクローバーはアピアランス支援センターのシンボルマークです



監修 国立がん研究センター中央病院 乳腺・腫瘍内科

発行 国立がん研究センター中央病院

編集 薬剤部

編集協力 乳腺・腫瘍内科
看護部



使用イラストは MPC 刊「薬と予防イラスト集」より転載

